

東京2020大会を見据えた新たな 災害対応体制の充実強化について



東京消防庁 消防総監 村上 研一

今年に入り1月22日に秋田県能代市、1月31日に東京都八王子市の火災現場において消防職員が殉職いたしました。身命を賭して住民を救出する使命達成のためとはいえ、将来ある職員の命が失われたことは痛恨の極みであり、ご遺族のご心痛を察するとお悔やみの言葉もありません。悲劇を二度と繰り返さないために、原因を究明し再発防止に取り組んでまいります。

さて、昨年の災害状況を振り返りますと、4月以降国内で、土砂災害、風水害、地震災害など、自然災害が立て続けに発生し、多くの人命と貴重な財産が失われました。本年の、G20大阪サミットやラグビーワールドカップ2019、来年にせまりました東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会など、国際的な大規模行事の開催を控え、自然災害だけでなく、テロ災害などあらゆる災害に迅速かつ的確に対応する万全な災害対応体制の確立が重要です。

そこで、東京消防庁としては次のような施策を進めていきます。

◆「どのような災害にも的確に対応する。」

大規模な災害において、現地での指揮による迅速な災害対応体制を整備することを目的に、高度な作戦機能を備えたコマンドカーを中核とした「統合機動部隊」を4月から運用開始します。

また、豪雨災害や、夏場の酷暑など、異常気象災害等への対応力を強化するため、新たに全地形活動車やエアボートなどを配備し、既存の部隊では進入困難な現場で活動できる「即応対処部隊」を創設します。

◆「一人でも多くの人の命を救う。」

昨年は、救急業務を開始して以来、救急出場件数が初めて80万件を超え、過去最多を記録しました。救急需要の増加に対応するため、救急隊及び救急機動部隊の増強を図るとともに、育児短時間勤務等の女性の活躍の一層の推進などを目的として平日・日勤帯での運用を行う「デイトタイム救急隊（仮称）」を5月に発隊します（試験的にEV自動車の救急車両を年度内に導入）。

また、道路狭隘地域などでも素早くファーストタッチを行うため、AED等の資器材を積載し、救急資格者が運転する「EVトライク」等によるファーストエイドチームを創設します。

◆「一つでも多くの建物の安全性を向上させる。」

夜間の繁華街での防火査察や困難性の高い違反是正推進のため、査察専従員を増員するほか、民間事業者が持つ建物・事業者情報等を活用した安全対策指導により、防火対象物の安全性向上を図ります。

◆「東京2020大会を無事に終了させる。」

開催期間中の警戒態勢の万全を期すため、関係各機関及び大会関連施設との情報共有体制を構築し、警戒状況等を映像や位置情報などにより一元管理する「東京消防庁オペレーションセンター（仮称）」を整備します。

以上の施策を状況に応じてタイムリーに推進することで、安全・安心な「セーフシティ東京」の実現につながるものと考えています。

当庁では、総務省消防庁をはじめ、全国消防長会、近隣消防本部との連携を密にし、5年後、10年後を視野に入れ、万全の災害対応体制を構築するために職員一丸となって消防行政を推進してまいります。